

# 大学生の自己愛傾向と父母との信頼関係・養育態度の関連

天 幸 佐 織\*・吉 澤 千 夏\*\*

(令和2年11月30日受付；令和2年12月17日受理)

## 要 旨

本研究は、自己愛傾向と父母との信頼関係・父母の養育態度との関連を明らかにすることを目的とした。具体的には、大学生による自己愛傾向の自己評価と父母それぞれとの信頼関係及び父母の養育態度の評価を行い、その関連について検討した。分析の結果、以下のことが明らかになった。

(1) 対象者である大学生は、他者から関心を得ることへの意欲が高く、自己主張し、積極的に行動する自分の姿に対する評価は高い。加えて、他者評価を気にする側面も浮かがる。その一方で、他者と影響関係を持つことには消極的で、自己の能力・才能に対する評価は低いといえる。

(2) 男女ともに自己愛傾向は高いものの、男子に比べて女子は、他者に気に入られているという意識が高い。一方、女子に比べて男子は、他者からの関心を得たり、自らを高く評価したりする項目への自己愛が高く、他者への影響力や他者からの注目欲求が強い。

(3) 自己愛傾向と父母との信頼関係をみると、女子では、母親への愛着や情緒の依存が「優越感有能感」と「注目賞賛欲求」を高め、母親に対する不信は「自己主張性」を低減させる。父親に対する分離不安は「優越感有能感」を低減させる。一方、男子では、母親への不信、拒否、蔑視が「優越感有能感」を高め、母親に対する愛着や情緒の依存が「注目賞賛欲求」を高める。父親への不信は「優越感有能感」を高め、蔑視は「優越感有能感」「自己主張性」を向上させる。

(4) 自己愛傾向と父母の養育態度をみると、女子では、母親の謙虚で落ち着いた養育態度が「優越感有能感」を高め、母親の非受容的な養育によって低減する。父親の大人中心の養育態度は「優越感有能感」を低減させ、父親の謙虚で子どもを自由にさせる養育は「注目賞賛欲求」を低減させる。一方、男子では、母親の自由で受容的な養育態度が「優越感有能感」を、母親の否定的で子どもを尊重しない、支持的でない、大人中心の養育は「注目賞賛欲求」を低減させる。さらに、母親が子どもを重視することは「自己主張性」を高めるものの、子どもを尊重しない養育態度によって低減する。父親による子ども重視の一貫した養育態度は「注目賞賛欲求」を高めるものの、子どもを尊重・信頼・支持しない、不安定な父親の養育は「注目賞賛欲求」を低減する。

## KEY WORDS

university students 大学生, narcissistic tendencies 自己愛傾向, the trust for their parents 父母との信頼関係, nurturing attitudes of parents for their child 父母の養育態度

## 1. 緒言

自己愛とは一般に、ナルシシズムと同義であり、自己を愛し、自己を性的対象とすることを意味し、転じて自己陶醉、うぬぼれ<sup>(1)</sup>と定義される。さらに自己愛の最も基本的な意味は「セルフ・ラブ」、すなわち自分が自分を愛することであり、人が身体的・心理的に健康に生きていくために重要なものである<sup>(2)</sup>。このことから、自己愛とは自分が自分自身を愛するという概念であるといえる。一方、自己愛傾向とは、一般のパーソナリティ傾向の一つ<sup>(3)</sup>とされ、青年にとって重要な人格特性であると考えられている<sup>(4)</sup>。これはすなわち、自己愛傾向とは自分が自分を愛することのできるという人格のことを意味しており、青年期に特有な人格特性の一つであると定義できる。

自己愛の形成には、父母の養育態度との関連が指摘されている<sup>(5)</sup>。具体的には、大学生を対象に行われた調査により、母親の暖かい受容的な養育態度が女子の自己愛傾向を抑制させ、母親の情緒不安定な養育態度が女子の自己愛傾向を増長させること、父親による支配・介入といった否定的な養育態度が男子の、父親の暖かく受容的な養育態度が女子の自己愛傾向を増長させる一方で、母親の養育態度と男子の自己愛傾向には有意な関連がみられないこと等が報告されている<sup>(6)</sup>。さらに、父親の受容的・統制的な養育態度が女子の自己愛傾向を増長させ、父親の統制的な養育態

\*能登町立認定こども園柳田保育所 \*\*自然・生活教育学系

度が男子の自己愛傾向を増長させること<sup>(7)</sup>、父親の愛情豊かで甘やかしがちな養育態度が女子の自己愛傾向にのみ関連していること<sup>(8)</sup>等が明らかになっているものの、いずれの研究においても、一貫性のある結果とはいえない。これについて、男子の自己愛傾向と母親の養育態度との関連がみられないことは、自己愛的人格の形成における性差による可能性が考えられるものの、これまでの自己愛的人格の研究においてこのような性差については殆ど検討されていないことを指摘するものもある<sup>(9)</sup>。また、子ども自身が親から拒絶・干渉されていると認知している場合、親との関係性を否定的に捉えることによって自己愛傾向を高めることが報告されている<sup>(10)</sup>ものの、親子関係と自己愛傾向の直接的な関連については検討されていない。

そこで本研究では、自己愛傾向と父母の養育態度との関連を対象者の性別に着目して再検討するとともに、自己愛傾向と父母との信頼関係の関連について検討ことを目的とする。

## 2. 方法

### 2. 1 調査対象

対象者はN県J大学に在籍する学生216名である。

### 2. 2 調査方法

2017年6月5日～19日にweb調査を実施する。

### 2. 3 調査紙の構成

調査紙は、以下の内容で構成されている。

①回答者の属性：性別、年齢、幼少期の父母との同居状況

②対象者の自己愛傾向

対象者の自己愛傾向を捉えるために、「自己愛人格目録短縮版 (NPI-S)」<sup>(11)</sup>の30項目の質問への回答を求める。「非常によく当てはまる」が「5」、「当てはまる」が「4」、「どちらもない」が「3」、「当てはまらない」が「2」、「全く当てはまらない」が「1」とする5段階評定で回答を求める。中央値は3.0であり、3.0より高いと自己愛傾向が高く、3.0より低いと自己愛傾向が低いことを示している。

③父母との信頼関係

対象者が幼少期（小学校低学年以前）の、父母との信頼関係がどのようなものであったか明らかにするために、「中学生の親子関係とソシオメトリック・ステータスとの関連」<sup>(12)</sup>を参考に作成した7項目の質問への回答を求める。「非常によく当てはまる」が「5」、「当てはまる」が「4」、「どちらとも言えない」が「3」、「当てはまらない」が「2」、「全く当てはまらない」が「1」とする5段階評定で回答を求める。

④父母の養育態度

対象者が幼少期（小学校低学年以前）の、父母の養育態度はどのようなものであったか明らかにするために、「母・父の養育態度を測定する項目」<sup>(13)</sup>の30の項目対を用いて、父母それぞれの養育態度を7段階評定で回答を求める。親の養育態度が右側の項目に近ければ「1」を、左側の項目が近ければ「7」を選択する。例えば、「1. 自立性を尊重する—尊重しない」の項目では、親の養育態度が「自立性を尊重する」に近ければ「1」を、「尊重しない」に近ければ「7」を選択する。

## 3. 結果及び考察

### 3. 1 対象者の性別及び年齢

対象者の性別の内訳は男子学生110名（50.9%）、女子学生106名（49.1%）である。また、対象者の平均年齢は19.5歳（SD=2.69）である。

### 3. 2 自己愛傾向と父母との信頼関係・父母の養育態度の様相

#### 3. 2. 1 対象者の自己愛傾向

まず、対象者の自己愛傾向を明らかにするために、「自己愛人格目録短縮版 (NPI-S)」<sup>(14)</sup>の30項目の質問への回答

結果を示す。中央値である3.0よりも高い項目は30項目中17項目である。

平均値が最も高いのは「14. 私は、多くの人から尊敬される人間になりたい。」(3.89)であり、次いで「5. 私は、みんなからほめられたいと思っている。」(3.83)、「15. 私は、どんなことにも挑戦していく方だと思う。」(3.51)である。さらに、平均値が3.0より高い項目に注目すると、「8. 私は、どちらかといえば注目される人間になりたい。」(3.24)、「23. 私は、みんなの人気者になりたいと思っている。」(3.16)、「20. 機会があれば、私は人目に付くことを進んでやってみたい。」(3.11)のように他者から関心を得ることや、「18. これまで私は自分の思うとおりに生きてきたし、今後もそうしたいと思う。」(3.34)、「27. 私は、自分独自のやり方を通すほうだ。」(3.28)、「3. 私は、自分の意見をはっきり言う人間だと思う。」(3.26)、「12. 私は、自分で責任を持って決断するのが好きだ。」(3.12)、「24. 私は、自己主張が強いほうだと思う。」(3.06)のように、自己主張し、積極的に行動する自分の姿に対する評価は高いといえる。また、「11. 周りの人が私のことをよく思ってくれないと、落ち着かない。」(3.29)、「22. 私に接する人はみんな、私という人間を気に入ってくれるようだ。」(3.05)、「28. 周りの人たちが自分のことを良い人間とってくれるので、自分でもそうなんだと思う。」(3.00)など、他者評価を気にする側面もうかがえる。

一方、平均値が最も低いのは、「17. 私は、人々を従わせられるような偉い人間になりたい。」(2.37)であり、次いで「29. 人が私に注意を向けてくれないと、落ち着かない気分になる。」(2.54)、「9. 私はどんな時でも、周りを気にせず自分の好きなように振る舞う。」(2.60)である。さらに、平均値が3.0より低い項目として、「7. 私は周りの人たちより有能な人間であると思う。」(2.62)、「4. 私は周りの人たちより、優れた才能を持っていると思う。」(2.64)などが挙げられ、他者と影響関係を持つことには消極的で、自己の能力・才能に対する評価は低いといえる。

一方、平均値が最も低いのは、「17. 私は、人々を従わせられるような偉い人間になりたい。」(2.37)であり、次いで「29. 人が私に注意を向けてくれないと、落ち着かない気分になる。」(2.54)、「9. 私はどんな時でも、周りを気にせず自分の好きなように振る舞う。」(2.60)である。さらに、平均値が3.0より低い項目として、「7. 私は周りの人たちより有能な人間であると思う。」(2.62)、「4. 私は周りの人たちより、優れた才能を持っていると思う。」(2.64)などが挙げられ、他者と影響関係を持つことには消極的で、自己の能力・才能に対する評価は低いといえる。

一方、平均値が最も低いのは、「17. 私は、人々を従わせられるような偉い人間になりたい。」(2.37)であり、次いで「29. 人が私に注意を向けてくれないと、落ち着かない気分になる。」(2.54)、「9. 私はどんな時でも、周りを気にせず自分の好きなように振る舞う。」(2.60)である。さらに、平均値が3.0より低い項目として、「7. 私は周りの人たちより有能な人間であると思う。」(2.62)、「4. 私は周りの人たちより、優れた才能を持っていると思う。」(2.64)などが挙げられ、他者と影響関係を持つことには消極的で、自己の能力・才能に対する評価は低いといえる。

### 3. 2. 2 自己愛傾向の男女比較

次に対象者の性別による自己愛傾向をみてみると、女子の自己愛傾向では、平均値が3.0よりも高い項目は30項目中15項目である。女子の自己愛傾向の平均値が最も高いのは「5. 私は、みんなからほめられたいと思っている。」(3.85)であり、次いで「14. 私は、多くの人から尊敬される人間になりたい。」(3.84)、「15. 私は、どんなことにも挑戦していく方だと思う。」(3.61)である。一方、平均値が最も低いのは「17. 私は、人々を従わせられるような偉い人間になりたい。」(2.37)であり、次いで「29. 人が私に注意を向けてくれないと、落ち着かない気分になる。」(2.54)、「9. 私はどんな時でも、周りを気にせず自分の好きなように振る舞う。」(2.48)である。

一方、男子の自己愛傾向についてみると、3.0よりも高い項目は30項目中17項目である。男子の自己愛傾向の平均値が最も高いのは「14. 私は、多くの人から尊敬される人間になりたい。」(3.94)であり、次いで「14. 私は、多くの人から尊敬される人間になりたい。」(3.84)、「15. 私は、どんなことにも挑戦していく方だと思う。」(3.61)である。一方、平均値が最も低いのは、「21. いつも私は話しているうちに、話の中心になってしまう。」(2.65)であり、次いで「17. 私は、人々を従わせられるような偉い人間になりたい。」(2.65)、「19. 私が言えば、どんなことでもみんな信用してくれる。」(2.70)である。

一方、男子の自己愛傾向についてみると、3.0よりも高い項目は30項目中17項目である。男子の自己愛傾向の平均値が最も高いのは「14. 私は、多くの人から尊敬される人間になりたい。」(3.94)であり、次いで「14. 私は、多くの人から尊敬される人間になりたい。」(3.84)、「15. 私は、どんなことにも挑戦していく方だと思う。」(3.61)である。一方、平均値が最も低いのは、「21. いつも私は話しているうちに、話の中心になってしまう。」(2.65)であり、次いで「17. 私は、人々を従わせられるような偉い人間になりたい。」(2.65)、「19. 私が言えば、どんなことでもみんな信用してくれる。」(2.70)である。

次に、自己愛傾向の性別間の相違を明らかにするためにt検定を行う。その結果、30項目中7項目に有意差がみられる。7項目のうち、「22. 私に接する人はみんな、私という人間を気に入ってくれるようだ。」のみ、男子(2.91)に比べ女子(3.19)の方が平均値が高いものの、それ以外の6項目の平均値は女子よりも男子の方が高い。「2. 私には注目を集めてみたいという気持ちがある。」(男子=3.37, 女子=3.10)、「8. 私は、どちらかといえば注目される人間になりたい。」(男子=3.40, 女子=3.07)、「26. 私は、人々の話題になるような人間になりたい。」(男子=3.04, 女子=2.62)のように人の注目を集めたいという項目や、「10. 私は周りの人が学ぶだけの値打ちのある長所をもっている。」(男子=2.88, 女子=2.49)のように自らを高く評価する項目への自己愛が高く、「17. 私は、人々を従わせられるような偉い人間になりたい。」(男子=2.65, 女子=2.08)、「29. 人が私に注意を向けてくれないと、落ち着かない気分になる。」(男子=2.76, 女子=2.31)のように他者への影響力や他者からの注目欲求が女子に比較して男子は高いといえる。

### 3. 2. 3 父母との信頼関係

対象者の幼少期の父母の信頼関係の様相を明らかにするために、7項目の質問への回答結果を示す。

父母とも、「1. 私は母(父)と親しく、母(父)を信頼していた。(愛着)」(母=4.57, 父=4.26)、「7. 母(父)が喜んでいて自分も嬉しく、悲しんでいると自分もつらくなった。(情緒的依存)」(母=3.94, 父=3.63)の項目の平均値は中央値である3.0よりも高い。一方、「2. 私は、母(父)を信用していなかった。(不信)」(母=1.46, 父=1.59)、「3. 母(父)は自分の味方だと思えず、離れていたかった。(拒否)」(母=1.52, 父=1.69)、「4. 私は、母(父)のことは見下していた。(蔑視)」(母=1.43, 父=1.54)、「5. 私は母(父)を恐れていて、何でも母(父)

の言うとおりにしていた。(服従)」(母=2.11, 父=2.31), 「6. 母(父)に叱られると、捨てられるのではないかと  
いう恐怖を感じていた(分離不安)」(母=1.79, 父=1.91)の項目の平均値は中央値3.0よりも低い。このことか  
ら、対象者は父母に対して愛着や情緒的依存を持つ一方で、不信や拒否、蔑視を抱く者は少なく、服従したり、分離  
不安を感じたりすることもあまりなく、安定的な信頼関係を持つ傾向がうかがえる。

次に、対象者の父母との信頼関係に違いがあるのかどうかを明らかにするために、父母間のt検定を行う。その結  
果、7項目中6項目において有意な差が認められる。有意差がみられる6項目のうち、愛着を示す「1. 私は母  
(父)と親しく、母(父)を信頼していた。」(母=4.56, 父=4.26), 情緒的依存を示す「7. 母(父)が喜んでい  
ると自分も嬉しく、悲しんでいると自分もつらくなった。」(母=3.92, 父=3.62)も2項目において、父親よりも母親  
の方が平均値は高い。一方、不信を示す「2. 私は、母(父)を信用していなかった。」(母=1.46, 父=1.58), 拒否  
を示す「3. 母(父)は自分の味方だと思えず、離れていたかった。」(母=1.54, 父=1.69), 蔑視を示す「4. 私  
は、母(父)のことを見下していた。」(母=1.45, 父=1.54), 服従を示す「5. 私は母(父)を恐れていて、何でも  
母(父)の言うとおりにしていた。」(母=2.11, 父=2.31)の4項目では、母親よりも父親の平均値の方が高い。

このことから、対象者と父母との信頼関係はどちらも良好ではあるものの、父親に比べて母親の方がより信頼関係  
が高く、母親に比べると父親との関係の方がややネガティブであると考えられる。

### 3. 2. 4 父母の養育態度

対象者が幼少期の頃の父母の養育態度を明らかにするために、30項目の質問への回答結果(図1)を示す。中央値  
を3.0としているため、平均値が高いほど右側の項目に、低いほど左の項目に該当することを示している。母親の平  
均値が高いのは、「無関心な—熱心な」(5.44), 次いで「無視する—重視する」(5.31), 「拒否的な—受容的な」  
(5.20)である。一方、母親の平均値が最も低いのは、「支持的な—支持的でない」(2.12), 次いで「信頼する—信  
頼しない」(2.13), 「意欲的な—無気力な」(2.21)である。父親の養育態度についてみると、平均値が最も高いのは  
「30. 拒否的な—受容的な」(5.02), 次いで「16. 無視する—重視する」(4.88), 「20. 拘束的な—解放的な」(4.86)  
である。一方、父親の平均値が最も低いのは、

「自立性を尊重する—尊重しない」(2.27), 次い  
で「個性を尊重する—尊重しない」(2.36), 「信  
頼する—信頼しない」(2.40)である。父親の養  
育態度が子どもの「自立性」, 「個性」を尊重し,  
「信頼する」姿勢の養育態度であるといえる。こ  
のことから、対象者は母親及び父親の養育態度を  
プラスのイメージで捉えていると考えられる。

さらに、対象者の父母の養育態度の特徴を明ら  
かにするために、父母間のt検定を行う。その結  
果、30項目中21項目に有意な差が認められる。有  
意差が見られた21項目のうち、父親よりも母親の  
方が値が高かったのは5項目、母親よりも父親の  
方が値が高かったのは16項目である。母親の方が  
値が高かったのは、「1. 自立性を尊重する—尊重  
しない」(母=2.64, 父=2.27), 「8. 無関心な—  
熱心な」(母=5.49, 父=4.61), 「16. 無視する  
—重視する」(母=5.35, 父=4.89), 「17. いい  
加減な—きちんとした」(母=5.11, 父=4.70),  
「30. 拒否的な—受容的な」(母=5.20, 父=  
5.03)である。父親の方が値が高かったのは、  
「4. 意欲的な—無気力な」(父=2.82, 母=  
2.16), 「6. 口うるさい—もの静かな」(父=  
4.17, 母=3.07), 「9. 信頼する—信頼しない」  
(父=2.40, 母=2.11), 「11. 支持的な—支持的  
でない」(父=2.45, 母=2.11), 「12. 子ども中  
心の—大人中心の」(父=3.09, 母=2.87),  
「13. 指示的な—非指示的な」(父=3.77, 母=

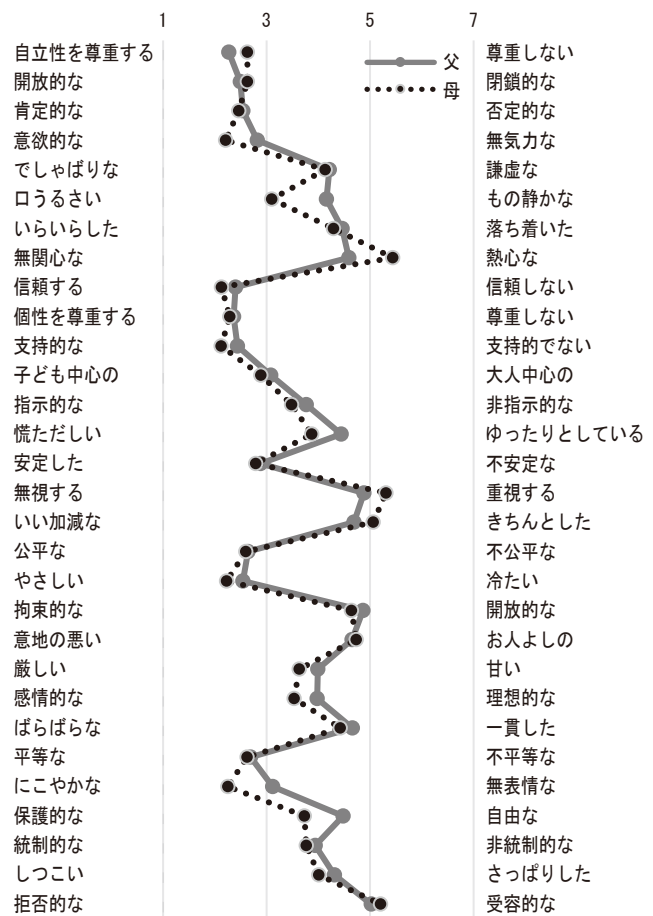


図1 父母の養育態度

3.45), 「14. 慌ただしい—ゆったりとしている」(父=4.45, 母=3.89), 「19. やさしい—冷たい」(父=2.56, 母=2.21), 「20. 拘束的な—解放的な」(父=4.86, 母=4.62), 「22. 厳しい—甘い」(父=4.00, 母=3.61), 「23. 感情的な—理性的な」(父=3.98, 母=3.54), 「24. ばらばらな—一貫した」(父=4.67, 母=4.45), 「25. 平等な—不平等な」(父=2.69, 母=2.61), 「26. にこやかな—無表情な」(父=3.12, 母=2.21), 「27. 保護的な—自由な」(父=4.47, 母=3.75), 「29. しつこい—さっぱりした」(父=4.31, 母=4.03)である。「無気力」で、「冷たい」「無表情な」「信頼しない」等のマイナスなイメージや、「大人中心の」「支持的でない」「不平等な」等の自己中心的な養育態度だと捉えられる項目において、母親に比して父親の方が平均値が高い。その一方で、「物静かな」「さっぱりした」「理性的な」「一貫した」等の冷静さや、「ゆったりとしている」「開放的な」「自由な」等の自由で余裕のある養育態度において、母親よりも父親に対する評価が高い。さらに「甘い」という項目においても、母親よりも父親に対する評価が高くなっている。このことから、対象者は父母の養育態度に対して良好なイメージを持つものの、母親より父親の方がやや冷たく自己中心的な養育態度だと捉えていると考えられる。これに加えて、父親は母親よりも冷静であるとともに甘い存在であると子どもに捉えられていることが示唆される。これに対して母親は、熱心で受容的であり、子どもを重視する養育態度であると評価されており、対象者にとって安心することのできる存在だと考えられる。

### 3.3 自己愛傾向と父母との関係

ここでは、対象者の自己愛傾向と父母との信頼関係及び父母の養育態度の関連を明らかにするために、対象者の自己愛傾向と父母との信頼関係間で相関分析を行う。分析にあたっては、自己愛傾向を「優越感有能感」「注目賞賛欲求」「自己主張性」の3側面から捉えるNPI-S (小塩 2004) を参考に、30項目の回答結果を3因子(「優越感有能感」「注目賞賛欲求」「自己主張性」)に分類した後、それぞれの評点を合計し、相関分析に用いる。

#### 3.3.1 女子の自己愛傾向と父母の信頼関係との関連

まず、女子の自己愛傾向と母との信頼関係の相関分析の結果(表1)をみると、女子の自己愛傾向の「優越感有能感」では、愛着を示す「1. 私は母と親しく、母を信頼していた。」( $p < .01$ ), 情緒的依存を示す「7. 母が喜んでいると自分も嬉しく、悲しんでいると自分もつらくなった。」( $p < .05$ )の2項目で有意な正の相関がみられる。自己愛の「注目賞賛欲求」では、情緒的依存を示す「7. 母が喜んでいると自分も嬉しく、悲しんでいると自分もつらくなった。」( $p < .05$ )においてのみ負の相関がみられる。

表1 女子の自己愛傾向と母との信頼関係の相関分析

	優越感有能感	注目賞賛欲求	自己主張性
1. 私は母と親しく、母を信頼していた。(愛着)	.294**	.221*	.177
2. 私は、母を信用していなかった。(不信)	-.121	-.173	-.246*
3. 母は自分の味方だと思えず、離れていたかった。(拒否)	-.069	-.032	-.046
4. 私は、母のことは見下していた。(蔑視)	-.066	-.065	-.045
5. 私は母を恐れていて、何でも母の言うとおりにしていた。(服従)	-.098	-.029	-.068
6. 母に叱られると捨てられるのではないかという恐怖を感じていた。(分離不安)	-.062	-.015	.065
7. 母が喜んでいると自分も嬉しく、悲しんでいると自分もつらくなった。(情緒的依存)	.201*	.252**	.042

\*\* $p < .01$ , \* $p < .05$

相関係数に着目すると、

女子の自己愛傾向の「優越感有能感」「注目賞賛欲求」は母親への信頼関係の「愛着」「情緒的依存」を示す項目との間に正の弱い相関が認められる。一方、女子の自己愛傾向の「自己主張性」は母親への信頼関係の「不信」との間に負の弱い相関を示している。このことから、女子が母親との間に愛着や情緒的依存を持つことは、自身に対する「優越感有能感」「注目賞賛欲求」が高まる一方で、母親に対する不信を持つほど、自己主張性が低減すると考えられる。

次に、女子の自己愛傾向と父との信頼関係の相関分析の結果(表2)をみると、自己愛傾向の「優越感有能感」では、愛着を示す「1. 私は父と親しく、父を信頼していた。」( $p < .05$ )に正の相関、分離不安を示す「6. 父に叱られると、捨てられるのではないかという恐怖を感じていた。」( $p < .05$ )に負の相関がみられる。「注目賞賛欲求」、

「自己主張性」では相関がみられる項目はない。

相関係数に着目すると、女子の自己愛傾向の「優越感有能感」「注目賞賛欲求」は父親への信頼関係の「愛着」を示す項目との間に正の相関が認められるものの、その値は低く、相関があるとはいえない。一方で、父親への信頼関係の「分離不安」との間には負の弱い相関が認められる。このことから、女子が父親に対して分離不安を持つことは、「優越感有能感」を低減させることが示唆される。

### 3. 3. 2 男子の自己愛傾向と父母の信頼関係との関連

次に、男子の自己愛傾向と母との信頼関係の相関分析の結果(表3)をみると、男子の自己愛傾向の「優越感有能感」では、不信を示す「2.

私は、母を信用していなかった。」、拒否を示す「3. 母は自分の味方だと思えず、離れていたかった。」、蔑視を示す「4. 私は、母のことは見下していた。」(いずれも $p < .01$ )に正の相関が、分離不安を示す「6. 母(父)に叱られると、捨てられるのではないかとこの恐怖を感じていた。」( $p < .05$ )に負の相関がみられる。自己愛傾向の「注目賞賛欲求」では、情緒的依存を示す「7. 母(父)が喜んでると自分も嬉しく、悲しんでいると自分もつらくなった。」

「1. 私は母と親しく、母を信頼していた。」(いずれも $p < .01$ )に正の相関がみられる。自己愛傾向の「自己主張性」では相関がみられる項目はない。

相関係数に着目すると、男子の自己愛傾向の「優越感有能感」は母親への信頼関係の「不信」「拒否」「蔑視」を示す項目との間に正の弱い相関が認められる。一方で、「分離不安」との間には弱い負の相関が認められる。男子の自己愛傾向の「注目賞賛欲求」は母親への信頼関係の「情緒的依存」「愛着」との間に正の弱い相関が認められる。このことから、男子が母親に対して「不信」「拒否」「蔑視」を感じることは自身に対する「優越感有能感」を高める一方で、母親への「分離不安」は自身に対する「優越感有能感」を低減する。また、母親に対して愛着や情緒的な依存を感じることは、「注目賞賛欲求」を高めると考えられる。

さらに男子の自己愛傾向と父との信頼関係の相関分析の結果(表4)をみると、男子の自己愛の「優越感有能感」では、不信を示す「2. 私は、父を信用していなかった。」( $p < .01$ )、蔑視を示す「4. 私は、父のことは見下していた。」( $p < .05$ )に正の相関がみられる。男子の自己愛傾向の「注目賞賛欲求」では、愛着を示す「1. 私は父と親しく、父を信頼していた。」( $p < .05$ )に正の相関がみられる。さらに「自己主張性」では、蔑視を示す「4. 私は、父

表2 女子の自己愛傾向と父との信頼関係の相関分析

	優越感有能感	注目賞賛欲求	自己主張性
1. 私は父と親しく、父を信頼していた。(愛着)	.197*	.026	.105
2. 私は、父を信用していなかった。(不信)	-.080	-.079	-.072
3. 父は自分の味方だと思えず、離れていたかった。(拒否)	.019	.013	.053
4. 私は、父のことは見下していた。(蔑視)	.109	.123	.068
5. 私は父を恐れていて、何でも父の言うとおりにしていた。(服従)	-.064	.063	-.058
6. 父に叱られると捨てられるのではないかとこの恐怖を感じていた。(分離不安)	-.216*	-.065	.015
7. 父が喜んでると自分も嬉しく、悲しんでいると自分もつらくなった。(情緒的依存)	.103	.160	.080

\*\* $p < .01$ , \* $p < .05$

表3 男子の自己愛傾向と母との信頼関係の相関分析

	優越感有能感	注目賞賛欲求	自己主張性
1. 私は母と親しく、母を信頼していた。(愛着)	-.020	.283**	.168
2. 私は、母を信用していなかった。(不信)	.395**	-.029	.146
3. 母は自分の味方だと思えず、離れていたかった。(拒否)	.366**	.040	.129
4. 私は、母のことは見下していた。(蔑視)	.359**	-.018	.129
5. 私は母を恐れていて、何でも母の言うとおりにしていた。(服従)	.188	-.099	.059
6. 母に叱られると捨てられるのではないかとこの恐怖を感じていた。(分離不安)	-.235*	-.002	.041
7. 母が喜んでると自分も嬉しく、悲しんでいると自分もつらくなった。(情緒的依存)	.044	.319**	.187

\*\* $p < .01$ , \* $p < .05$

のことは見下していた。」  
( $p < .05$ ) に正の相関がみられる。

相関係数に着目すると、男子の自己愛傾向の「優越感有能感」は父親への信頼関係の「不信」「蔑視」を示す項目との間に正の弱い相関が認められる。また、男子の自己愛傾向の「自己主張性」と父親への信頼関係の「蔑視」との間にも正の弱い相関が認められる。一方で、男子の自己愛傾向の「注目賞賛要求」は父親への信頼関係の「愛着」と示す項目との間に正の相関がみられるものの、その値

は低く、相関は認められない。このことから、男子が父親に対して「不信」を抱くことは「優越感有能感」を高めるとともに、父親に対する「蔑視」は「優越感有能感」と「自己主張性」を向上させると考えられる。

3. 3. 3 女子の自己愛傾向と父母の養育態度との関連

まず、女子の自己愛傾向と母の養育態度の相関分析の結果をみると、女子の自己愛傾向の「優越感有能感」と母の養育態度の「でしゃばりな—謙虚な」「いらいらした—落ち着いた」(いずれも  $p < .01$ )、「拒否的な—受容的な」( $p < .05$ ) の3項目に正の相関が、「肯定的な—否定的な」「個性を尊重する—尊重しない」( $p < .01$ )、「自立性を尊重する—尊重しない」「信頼する—信頼しない」「支持的な—支持的でない」「子ども中心の—大人中心の」「安定した—不安定な」「にこやかな—無表情な」(いずれも  $p < .05$ ) の8項目に負の相関がみられる(表5)。自己愛の「注目賞賛要求」では、母の養育態度との相関はみられない。自己愛の「自己主張性」と母の養育態度では「個性を尊重する—尊重しない」( $p < .05$ ) のみに負の相関がみられる。

相関係数に注目すると、女子の自己愛傾向の「優越感有能感」と母親の養育態度の「でしゃばりな—謙虚な」「いらいらした—落ち着いた」「拒否的な—受容的な」が正の弱い相関を示している。一方、自己愛傾向の「優越感有能感」と母親の養育態度の「肯定的な—否定的な」「信頼する—信頼しない」「個性を尊重する—尊重しない」「支持的な—支持的でない」「子ども中心の—大人中心の」「安定した—不安定な」「にこやかな—無表情な」は負の弱い

表4 男子の自己愛傾向と父との信頼関係の相関分析

	優越感有能感	注目賞賛欲求	自己主張性
1. 私は父と親しく、父を信頼していた。(愛着)	.068	.196*	-.037
2. 私は、父を信用していなかった。(不信)	.254**	.023	.117
3. 父は自分の味方だと思えず、離れていたかった。(拒否)	.156	-.035	.091
4. 私は、父のことは見下していた。(蔑視)	.240*	.129	.219*
5. 私は父を恐れていて、何でも父の言うとおりにしていた。(服従)	.015	.008	.085
6. 父に叱られると捨てられるのではないかという恐怖を感じていた。(分離不安)	.040	.069	.066
7. 父が喜んでいると自分も嬉しく、悲しんでいると自分もつらくなった。(情緒的依存)	.139	.124	.107

\*\* $p < .01$ , \* $p < .05$

表5 女子の自己愛傾向と母の養育態度の関連

	優越感有能感	注目賞賛欲求	自己主張性
自立性を尊重する—尊重しない	-.196*	-.148	-.106
開放的な—閉鎖的な	-.112	-.051	-.115
肯定的な—否定的な	-.286**	-.132	-.108
意欲的な—無気力な	-.188	-.078	-.115
でしゃばりな—謙虚な	.297**	.113	-.049
口うるさい—もの静かな	.099	-.043	.086
いらいらした—落ち着いた	.253**	.122	.071
無関心な—熱心な	.150	.082	.131
信頼する—信頼しない	-.228*	-.098	.014
個性を尊重する—尊重しない	-.312**	-.175	-.192*
支持的な—支持的でない	-.205*	-.165	-.165
子ども中心の—大人中心の	-.201*	-.127	-.086
指示的な—非指示的な	-.044	-.081	-.004
慌ただしい—ゆったりとしている	.121	.074	.180
安定した—不安定な	-.233*	.023	.012
無視する—重視する	.060	-.003	-.008
いい加減な—きちんとした	.068	.043	-.032
公平な—不公平な	-.120	-.074	-.074
やさしい—冷たい	-.190	-.119	-.119
拘束的な—解放的な	-.017	-.033	-.022
意地の悪い—お人よしの	.032	.024	.027
厳しい—甘い	.007	.027	-.039
感情的な—理性的な	.013	-.072	.097
ばらばらな—一貫した	-.008	-.105	-.005
平等な—不平等な	-.033	-.077	.040
にこやかな—無表情な	-.218*	-.093	-.144
保護的な—自由な	-.042	-.040	.000
統制的な—非統制的な	.040	.009	.056
しつこい—さっぱりした	-.040	-.132	.095
拒否的な—受容的な	.242*	.028	.086

\*\* $p < .01$ , \* $p < .05$

相関を示しているものの、「自立性を尊重する—尊重しない」については相関係数の値が低く、相関があるとはいえない。さらに女子の自己愛傾向の「自己主張性」と母親の養育態度の「個性を尊重する—尊重しない」にも有意な負の相関はみられるものの、その値は低く、相関は認められない。この結果は、「優越感有能感」「注目賞賛欲求」「自己主張性」が高いとき、正の相関は「」内の項目の右側の養育態度、負の相関は「」内の左側の養育態度と関連があることを示している。このことから、女子の「優越感有能感」は母親の「謙虚」で「落ち着いた」養育態度によって高まると考えられる。また、女子の「優越感有能感」は母親の「否定的な」「信頼しない」「尊重しない」「支持的でない」「大人中心の」「不安定な」「無表情な」養育態度によって低減することが示唆される。

次に、女子の自己愛傾向と父の養育態度の相関分析の結果をみると、女子の自己愛傾向の「優越感有能感」と父の養育態度の「子ども中心の—大人中心の」(p<.05)のみに負の相関がみられる(表6)。自己愛の「注目賞賛欲求」では、「保護的な—自由な」(p<.01)、「でしゃばりな—謙虚な」「指示的な—非指示的な」「統制的な—非統制的な」(p<.05)に負の相関がみられる。自己愛の「自己主張性」と父の養育態度との相関はみられない。

相関係数に注目すると、女子の自己愛傾向の「優越感有能感」と父親の養育態度の「子ども中心の—大人中心の」が負の弱い相関を示している。また、自己愛傾向の「注目賞賛欲求」と父親の養育態度の「保護的な—自由な」「でしゃばりな—謙虚な」「指示的な—非指示的な」は負の弱い相関を示しているものの、「統制的な—非統制的な」については相関係数の値が低く、相関があるとはいえない。このことから、女子の「優越感有能感」は父親の「大人中心の」養育態度によって低減すると考えられる。また、女子の「注目賞賛欲求」は父親の「謙虚な」「非指示的な」「自由な」養育態度によって低減することが示唆される。

### 3. 3. 4 男子の自己愛傾向と父母の養育態度との関連

男子の自己愛傾向と母の養育態度の相関分析の結果(表7)をみると、男子の自己愛傾向の「優越感有能感」と母親の養育態度の「でしゃばりな—謙虚な」「保護的な—自由な」「拒否的な—受容的な」(いずれもp<.05)の3項目に負の相関がみられる。男児の自己愛傾向の「注目賞賛欲求」では、「肯定的な—否定的な」(p<.01)、「信頼する—信頼しない」「個性を尊重する—尊重しない」「支持的な—支持的でない」「子ども中心の—大人中心の」(いずれもp<.05)の5項目に負の相関がみられる。自己愛の「自己主張性」と母の養育態度では「無視する—重視する」(p<.05)のみに正の相関がみられ、「自立性を尊重する—尊重しない」(p<.01)、「個性を尊重する—尊重しない」「支持的な—支持的でない」(いずれもp<.05)の3項目に負の相関がみられる。

相関係数に注目すると、男子の自己愛傾向の「優越感有能感」と母親の養育態度の「保護的な—自由な」「拒否的な—受容的な」が負の弱い相関を示しているものの、「でしゃばりな—謙虚な」については、相関係数の値が低く、相関があるとはいえない。自己愛傾向の「注目賞賛欲求」と母親の養育態度の「肯定的な—否定的な」「個性を尊重する—尊重しない」「支持的な—支持的でない」「子ども中心の—大人中心の」は負の弱い相関を示しているものの、「信頼する—信頼しない」については相関係数の値が低く、相関があるとはいえない。さらに、男子の自己愛傾向の「自己主張性」と母親の養育態度の「無視する—重視する」に正の弱い相関がみられ、「自立性を尊重する—尊重しない」「個性を尊重する—尊重しない」「支持的な—支持的でない」との間には弱い負の相関が認められる。このこ

表6 女子の自己愛傾向と父の養育態度の関連

	優越感有能感	注目賞賛欲求	自己主張性
自立性を尊重する—尊重しない	.000	-.031	-.072
開放的な—閉鎖的な	.046	.029	.043
肯定的な—否定的な	-.041	-.008	.063
意欲的な—無気力な	.057	-.038	-.112
でしゃばりな—謙虚な	.103	-.205*	-.071
口うるさい—もの静かな	.017	-.181	-.172
いらいらした—落ち着いた	.098	-.145	-.032
無関心な—熱心な	-.040	.113	.111
信頼する—信頼しない	-.107	-.006	-.122
個性を尊重する—尊重しない	-.140	-.142	-.117
支持的な—支持的でない	-.034	.018	-.013
子ども中心の—大人中心の	-.203*	-.130	-.070
指示的な—非指示的な	-.090	-.257*	-.137
慌ただしい—ゆったりとしている	.150	-.110	-.048
安定した—不安定な	-.070	.077	-.088
無視する—重視する	.144	-.003	.043
いい加減な—きちんとした	.094	-.076	-.030
公平な—不公平な	-.100	.053	-.159
やさしい—冷たい	-.088	-.143	-.062
拘束的な—解放的な	.023	.000	-.091
意地の悪い—お人よしの	-.161	-.002	.045
厳しい—甘い	.027	.064	-.024
感情的な—理性的な	.028	-.158	-.029
ばらばらな—貫いた	.012	-.137	-.103
平等な—不平等な	.014	.155	-.086
にこやかな—無表情な	-.043	-.134	-.103
保護的な—自由な	.014	-.258**	-.136
統制的な—非統制的な	-.072	-.196*	.015
しつこい—さっぱりした	.057	-.115	-.055
拒否的な—受容的な	.090	.003	.044

\*\*p<.01, \*p<.05



とから、男子の「優越感有能感」は母親の「自由な」「受容的な」養育態度によって低減すると考えられる。また、男子の「注目賞賛欲求」は母親の「否定的な」「尊重しない」「支持的でない」「大人中心の」養育によって低減することが示唆される。さらに、男子の「自己主張性」は母親が子どもを「重視する」ことによって高まるものの、「自主性を尊重しない」「個性を尊重しない」「支持的でない」養育態度によって低減すると推察される。

次に、男子の自己愛傾向と父の養育態度の相関分析の結果(表8)をみると、男子の自己愛傾向の「注目賞賛欲求」では、「慌ただしい—ゆったりとしている」「無視する—重視する」「ばらばらな—一貫した」(いずれも $p < .05$ )の3項目に正の相関がみられ、「信頼する—信頼しない」「安定した—不安定な」( $p < .01$ )、「自立性を尊重する—尊重しない」「支持的な—支持的でない」「子ども中心の—大人中心の」(いずれも $p < .05$ )の5項目に負の相関がみられる。一方、男子の自己愛傾向の「優越感有能感」及び「自己主張性」と父の養育態度では、有意な相関はみられない。

相関係数に注目すると、男子の自己愛傾向の「注目賞賛欲求」と父親の養育態度の「無視する—重視する」「ばらばらな—一貫した」が正の弱い相関を示しているものの、「慌ただしい—ゆったりとしている」については、相関係数の値が低く、相関があるとはいえない。一方、父親の養育態度の「自立性を尊重する—尊重しない」「信頼する—信頼しない」「支持的な—支持的でない」「安定した—不安定な」は負の弱い相関を示しているものの、「子ども中心の—大人中心の」については、相関係数の値が低く、相関があるとはいえない。このことから、男子の「注目賞賛欲求」は子どもを「重視する」「一貫した」父親による養育態度によって高まると考えられる。その一方で、子どもを「尊重しない」「信頼しない」「支持的でない」「不安定な」父親の養育態度によって男子の「注目賞賛欲求」が低減することが示唆される。

表7 男子の自己愛傾向と母の養育態度の関連

	優越感有能感	注目賞賛欲求	自己主張性
自立性を尊重する—尊重しない	-.061	-.179	-.255**
開放的な—閉鎖的な	.064	-.187	-.154
肯定的な—否定的な	-.006	-.247**	-.126
意欲的な—無気力な	-.092	-.159	-.119
でしゃばりな—謙虚な	-.192*	-.121	-.124
口うるさい—もの静かな	-.153	-.084	-.164
いらいらした—落ち着いた	-.042	-.064	.024
無関心な—熱心な	.069	.083	.171
信頼する—信頼しない	.031	-.189*	-.136
個性を尊重する—尊重しない	-.016	-.242*	-.207*
支持的な—支持的でない	-.029	-.222*	-.203*
子ども中心の—大人中心の	.035	-.202*	-.149
指示的な—非指示的な	-.097	-.060	-.038
慌ただしい—ゆったりとしている	.024	-.034	.085
安定した—不安定な	.057	.052	-.160
無視する—重視する	-.077	.138	.207*
いい加減な—きちんとした	-.068	-.009	.031
公平な—不公平な	.135	-.128	-.124
やさしい—冷たい	.116	-.092	-.046
拘束的な—解放的な	-.113	.030	.036
意地の悪い—お人よしの	-.008	.125	.097
厳しい—甘い	-.079	-.069	-.081
感情的な—理性的な	-.046	-.160	.057
ばらばらな—一貫した	.017	-.011	.127
平等な—不平等な	.102	-.140	-.055
にこやかな—無表情な	.129	-.156	-.074
保護的な—自由な	-.225*	-.076	-.121
統制的な—非統制的な	-.107	-.021	.066
しつこい—さっぱりした	-.039	.028	.027
拒否的な—受容的な	-.244*	.077	.098

\*\* $p < .01$ , \* $p < .05$

表8 男子の自己愛傾向と父の養育態度の関連

	優越感有能感	注目賞賛欲求	自己主張性
自立性を尊重する—尊重しない	-.073	-.232*	-.084
開放的な—閉鎖的な	.086	-.075	-.005
肯定的な—否定的な	-.029	-.110	.029
意欲的な—無気力な	.014	-.021	-.052
でしゃばりな—謙虚な	.080	.079	-.144
口うるさい—もの静かな	.180	.174	-.015
いらいらした—落ち着いた	.130	.181	.011
無関心な—熱心な	.106	.110	.113
信頼する—信頼しない	-.110	-.277**	-.065
個性を尊重する—尊重しない	.012	-.118	-.045
支持的な—支持的でない	-.032	-.241*	-.017
子ども中心の—大人中心の	.003	-.199*	.089
指示的な—非指示的な	.062	.135	-.072
慌ただしい—ゆったりとしている	.102	.197*	-.067
安定した—不安定な	-.158	-.267**	-.026
無視する—重視する	.055	.238*	.028
いい加減な—きちんとした	.009	.085	.042
公平な—不公平な	-.021	-.171	.007
やさしい—冷たい	.063	-.070	.044
拘束的な—解放的な	.025	.126	.054
意地の悪い—お人よしの	.069	.168	-.050
厳しい—甘い	.087	.097	-.055
感情的な—理性的な	.090	.178	-.087
ばらばらな—一貫した	.117	.238*	.091
平等な—不平等な	-.060	-.143	-.004
にこやかな—無表情な	.054	-.069	.036
保護的な—自由な	-.017	.112	-.116
統制的な—非統制的な	-.056	.076	-.127
しつこい—さっぱりした	-.002	.118	-.095
拒否的な—受容的な	-.045	.110	-.134

\*\* $p < .01$ , \* $p < .05$

#### 4. おわりに

本研究は、自己愛傾向と父母との信頼関係・父母の養育態度との関連について、特に対象者の性別に着目して明らかにすることを目的とし、対象者の自己愛傾向を「自己愛人格目録短縮版 (NPI-S)」(小塩 2004) により捉えるとともに、父母との信頼関係及び父母の養育態度に対する対象者による評価を行い、その関連について検討したものである。分析の結果から、対象者である大学生は男女ともに高い自己愛傾向を持つものの、概して女子よりも男子の方が自己愛傾向が強いこと、父母との信頼関係及び養育態度は女子・男子の自己愛傾向に対してそれぞれ異なる影響を与えること、中でも特に「優越感有能感」に対する影響が大きいことが明らかになった。これは子ども自身の性別によって、父母との信頼関係や父母の養育態度の受け止めが異なり、それによって形成される自己愛傾向が異なる可能性を示唆している。しかし、具体的にどのようなかわりが信頼関係や養育態度に影響し、また自己愛傾向の形成に関連するかは明らかにされていない。今後は、父母との信頼関係や養育態度をより具体的に捉えながら、子どもの自己愛傾向の形成についてより詳細な分析を行い、子どもの育ちを学習する「技術・家庭」等の「保育」教育・学習等に寄与するデータを提供することが求められる。

なお、本研究の一部は、平成29年度上越教育大学卒業研究(天幸佐織)において、発表されている。本研究にご協力くださいました皆さまに心より感謝申し上げます。

#### 引用文献

- (1) 広辞苑 第七版(2008) 岩波書店
- (2) 小此木啓吾(1981) 自己愛人間. 朝日出版社
- (3) 小塩真司(2013) 自己愛傾向 『最新心理学事典(藤永保 監修)』平凡社
- (4) 小塩真司(1997) 自己愛傾向に関する基礎的研究—自尊感情、社会的望ましさととの関連—: 名古屋大学教育学部紀要(教育心理学科) 44 155-163
- (5) 渡辺弘純・岡紋子(2013) 大学生の自己愛的傾向と親の養育態度・社会的比較志向性との関連: 福山市立大学 教育学部研究紀要 vol.1 149-156
- (6) 宮下一博(1991) 青年におけるナルシシズム(自己愛)的傾向と親の養育態度・家庭の雰囲気との関係: 教育心理学研究 第39巻 第4号
- (7) 小西瑞穂・佐藤豪(2009) 自己愛人格傾向と養育態度の関連が精神的健康に及ぼす影響について 同志社心理 (56), 45-52
- (8) 小西瑞穂(2009) 自己愛人格傾向と両親の養育態度との関連 東海学院大学紀要 (3), 125-127
- (9) 前掲書 (6)
- (10) 川勝裕生(2013) 親子関係認知と自己愛傾向との関連—心的表象の観点から—: 追手門学院大学心理学論集 第21号 9-16
- (11) 小塩真司(2004) 自己愛人格目録(NPI)の構造と自己愛人格目録短縮版(NPI-S)の作成 自己愛の青年心理学. ナカニシヤ出版
- (12) 久保田まり(1995) アタッチメントの研究. 川島書店
- (13) 前掲書 (6)
- (14) 前掲書 (11)

# Relationship between the narcissistic tendencies of university students and the trust for their parents and the nurturing attitudes of parents for their child.

Saori TENKOU\* · Chinatsu YOSHIZAWA\*\*

## ABSTRACT

The purpose of this study is to clarify the relationship between narcissistic tendencies of children and the trusting relationship between parents and their children, as well as their parents' attitudes toward their children. Specifically, university students' self-assessments of narcissistic tendencies, their trusting relationship with their parents, and their parents' attitudes toward their children are evaluated, and the relationship between the two is examined. The results are as follows:

1. University students are more interested in receiving attention from others and they gave higher evaluations to their own assertive and proactive behavior. In addition, they are also concerned about the evaluation from others. On the other hand, they are reluctant to influence others, and their abilities and talents are rated low by themselves.
2. Both males and females have a high tendency to be narcissistic. However, females have a higher sense of being liked by others than males. On the other hand, males are more narcissistic that get the attention of others and that they value themselves highly than females, and they have a stronger desire for influence and attention from others.
3. In terms of the relationship between narcissistic tendencies of university students and the trust for their parents, narcissistic tendencies for male and female students are influenced differently by their fathers and mothers.
4. In the view of the relationship between narcissistic tendencies of university students and the nurturing attitudes of parents for their child, narcissistic tendencies for male and female students are also influenced dissimilarly by their fathers and mothers.